

THROW

Moe Moe \ Professional Hair Color

THROW COLOR
BASIC MANUAL



THROW OFFICIAL SITE
<http://throw-web.com>

スロウヘアカラー 検索

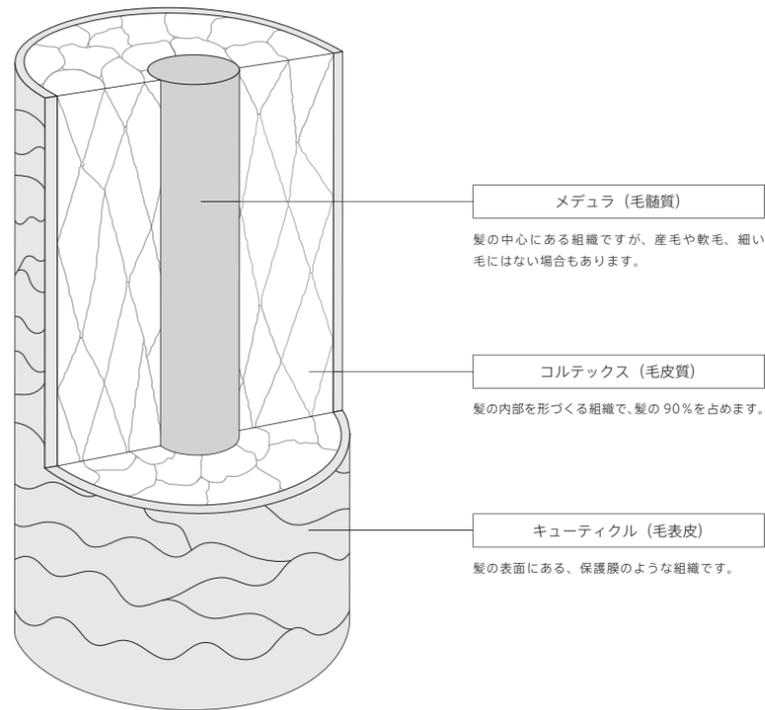
MoltoBene
PROFESSIONAL

株式会社モルトベネ 東京都新宿区西早稲田 2-20-15
テクニカルサポートセンター 03(3204)8111

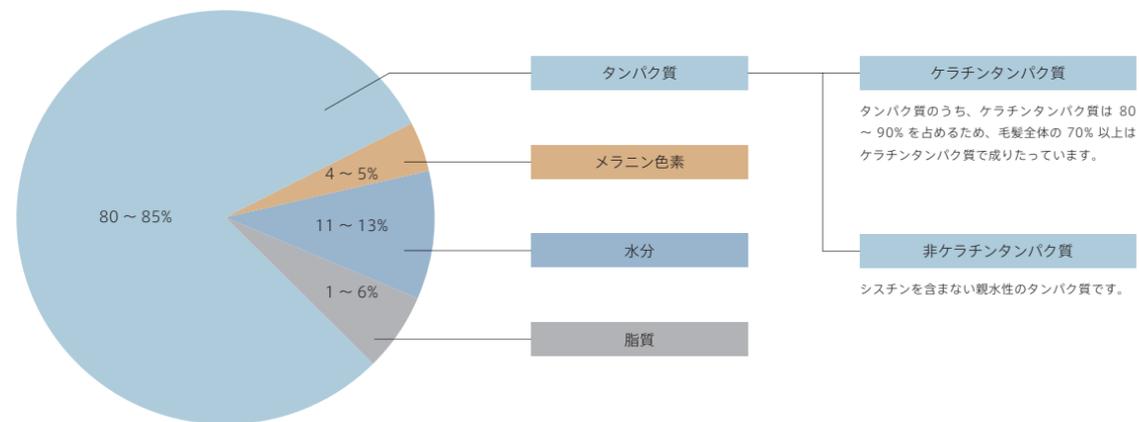
毛髪の基礎知識

毛髪の構造

毛髪は、大きく3層に分かれており、外側からそれぞれ、キューティクル（毛表皮）とCMC（細胞膜複合体）を含む《キューティクル領域》、コルテックス（毛皮質）とCMCを含む《コルテックス領域》、そして《メデュラ（毛髄質）》と呼ばれています。その構造はちょうど写真（下）のような、のり巻きに似た形をしており、キューティクル領域がのり、コルテックス領域がごはん、メデュラが具材に相当します。



毛髪の成分

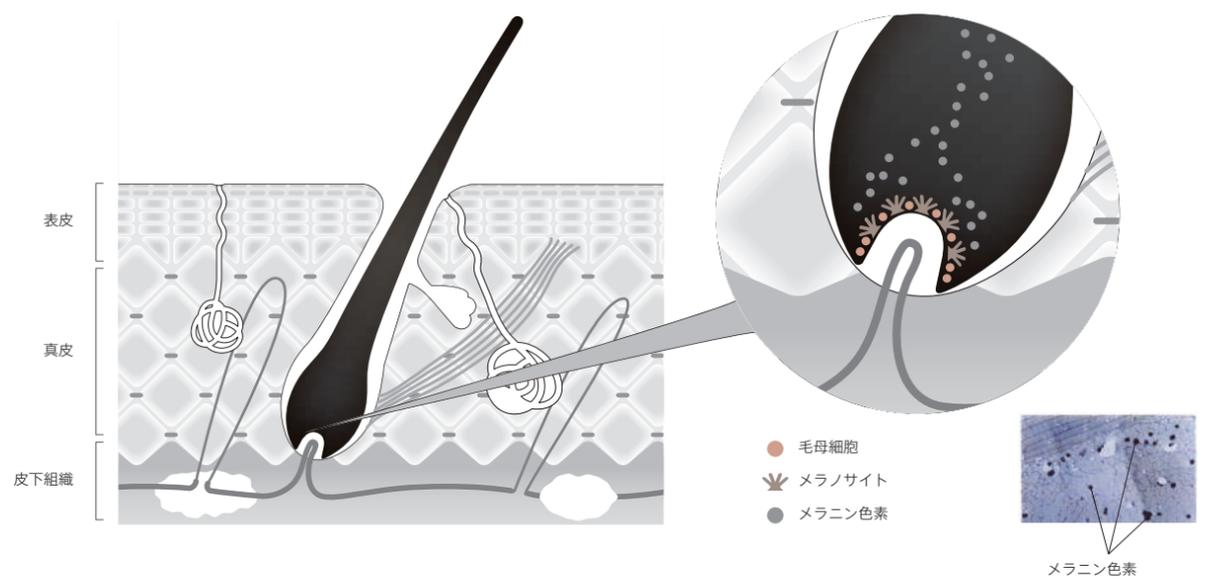


* 図はイメージです。

メラニン色素

メラニン色素って何？

メラニン色素は皮膚・毛髪に含まれており、肌や髪の色を決定づける物質です。メラノサイト（色素細胞）でアミノ酸のひとつであるチロシンを原料として、メラニン合成酵素（チロシナーゼ）の作用により、酸化重合されて作り出されます。メラニン色素はシミやそばかすの原因と言われていますが、有害な紫外線（Ultra Violet : UV）を吸収し、頭部や身体を守る働きがあります。

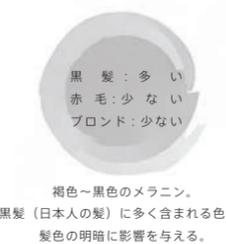


髪の色を決める重要なメラニン色素

毛髪内に含まれるメラニン色素が大きくなったり、量が多くなると、髪は光を吸収して黒く見えますが、メラニン色素がほとんどない人の髪は光の乱反射によって白く見えます。また、メラニン色素にはユウメラニンとフェオメラニンの2種類がありますが、黒髪、赤毛、ブロンドなどの髪の色は、毛髪内に存在するこの2種類のメラニン色素の量やバランス（比率）によって決まります。

黒髪をブリーチしていくに従い、まずユウメラニンが破壊され、髪色が赤みからオレンジみに変化していきます。さらにブリーチしていくと、髪にはフェオメラニンの色が残り、オレンジみから黄みに変化していきます。

ユウメラニン（真メラニン）



フェオメラニン（亜メラニン）



* 図はイメージです。

ヘアカラーの基礎知識

アンダーレベルとは

毛髪のメラニン色素がブリーチなどで脱色されていく過程を明度（明るさ）だけで段階的に数値化したものです。アンダーレベルを測定するには「レベルスケール」を使用します。

レベルスケール



アンダートーンとは

毛髪に含まれるメラニン色素がブリーチなどで脱色され、明度（明るさ）が上がっていく過程で、毛髪内に残留しているメラニン色素のトーン（髪が本来持つ色）を示したものです。



残留ティントとは

髪に残留しているヘアカラー剤の染料（ティント）の色みです。（※メラニン色素ではなく、過去に染めたカラー剤などの染料）

アンダーカラーとは

メラニン色素のトーン（アンダートーン）と、ヘアカラー剤の残留ティントの組み合わせにより見える色を指します。残留ティントがない場合はアンダートーンがそのままアンダーカラーになります。薬剤選定する際にアンダーカラーを見極めることは必要不可欠です。アンダーカラーを見極めるには、アンダートーン、残留ティント、アンダーレベルについて熟知する必要があります。

ヘアカラーの種類と分類

分類	色素の種類	pH	特長	ダメージ	業事分類
一時染毛料	顔料	中性	<ul style="list-style-type: none"> ● 染毛は比較的簡単 ● 染料は毛髪の表面に付着する ● シャンプーで落ちる <p>THROW HAIR COLOR CONCEALER</p>	なし	化粧品
半永久染毛料	酸性染料	酸性	<ul style="list-style-type: none"> ● 鮮やかな色み ● ツヤが良い 	なし	化粧品
	HC染料 塩基性染料	中性 ～ アルカリ性	<ul style="list-style-type: none"> ● HC染料は直接染料 ● 塩基性染料は、+イオンを持つ ● 色持ちはよくない 	ほとんどなし	
永久染毛剤	金属類	アルカリ性	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄+タンニン酸やポリフェノール等 ● パーマがかかりにくくなる 	あり	医薬部外品
	酸化染料® (2剤式)	アルカリ性	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広い明度や彩度でヘアカラーができる <p>THROW HAIR COLOR</p>	あり	
		弱アルカリ性	<ul style="list-style-type: none"> ● ダメージの少ないヘアカラー 	少しあり	
		弱酸性 ～ 中性 (pH6～6.5)	<ul style="list-style-type: none"> ● ダメージがほとんどないヘアカラー ● 明度を上げることはできない 	ほとんどなし	
その他	植物類	酸性	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘナ配合タイプ、インディゴ配合タイプ等 ● 染まりが薄い 	なし	化粧品

※ご使用の際は毎回必ず皮膚アレルギー試験（パッチテスト）を行ってください。

pH とは

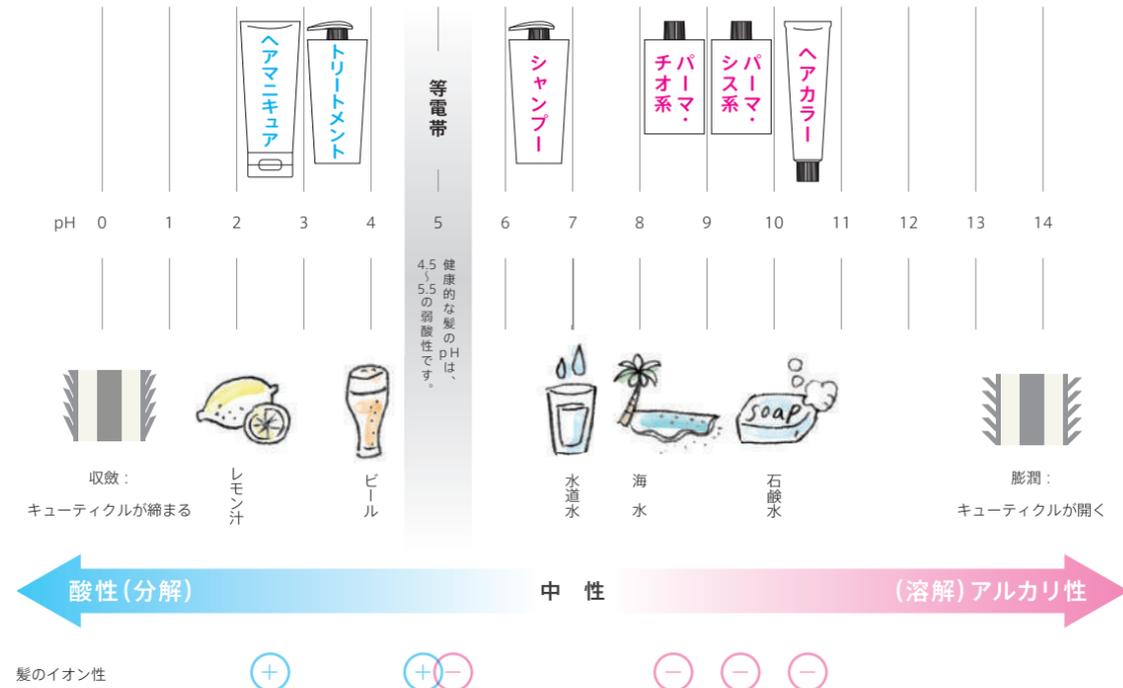
pH とは、水素イオン濃度指数の略で、その水溶液がアルカリ性か酸性かを数値で表したものです。

pH は通常、0～14 までで表され、真ん中の pH7 が《中性》になります。

健康な髪の状態は pH4.5～5.5 の間にあり（この範囲を等電帯といいます）弱酸性を示します。

薬剤は酸性領域のヘアマニキュアからアルカリ領域のパーマ・ヘアカラーまで幅広く、薬剤と髪（健康毛）の関係性を知り、

ダメージが進行しないように適切な処置を行いましょう。



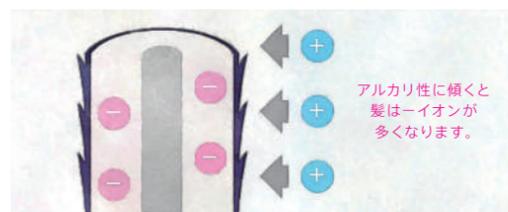
pH とイオン

髪は pH の状態によって電荷（イオン）が変化します。

シャンプー・トリートメント・ヘアマニキュア・カラースプレーなどはこの原理を応用しています。



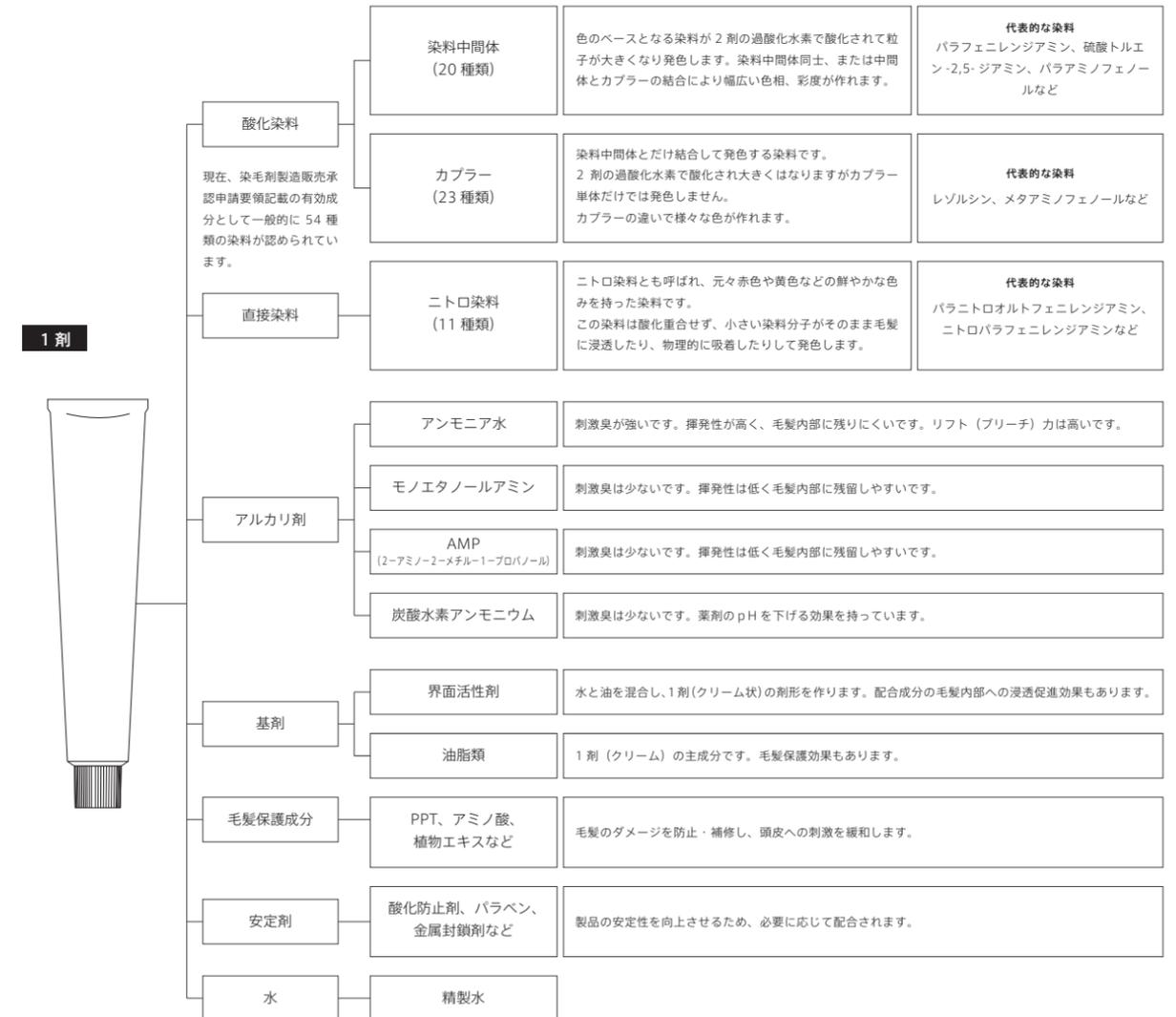
髪に+イオンが多くなると-イオンと引き合うようになります。主にヘアマニキュアの染着に関係しています。



髪に-イオンが多くなると+イオンと引き合うようになります。主にトリートメントの吸着に関係しています。

* 図はイメージです。

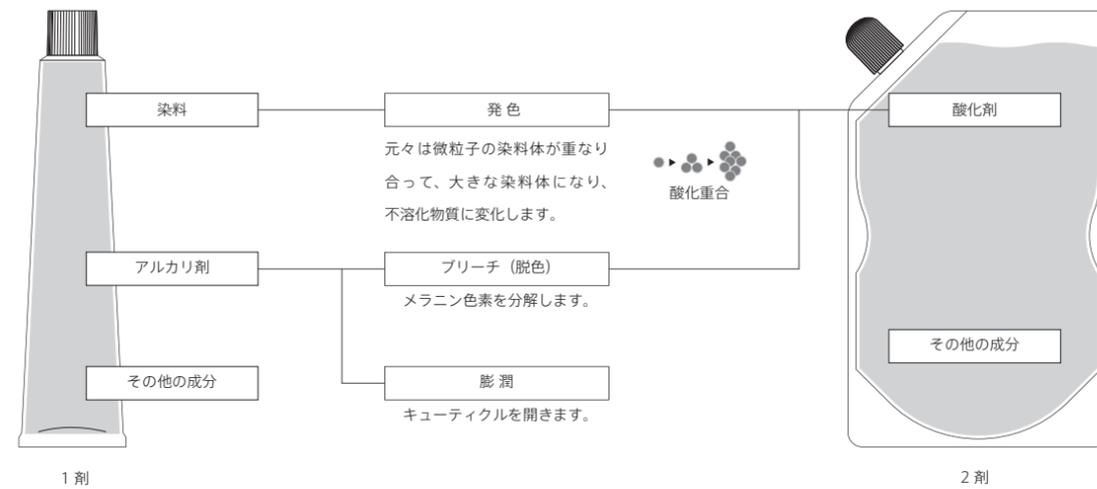
薬剤（1 剤 & 2 剤）の主要成分



アルカリカラー（酸化染毛剤）の基礎知識

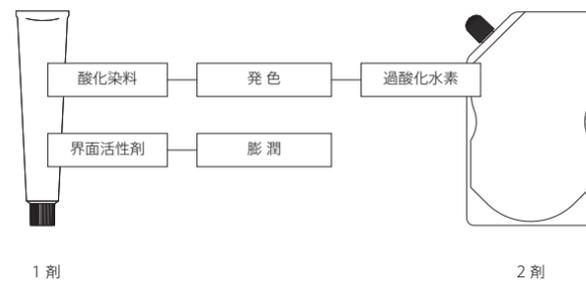
アルカリタイプの場合

アルカリヘアカラーは3つのプロセスがあります。



弱酸性タイプの場合

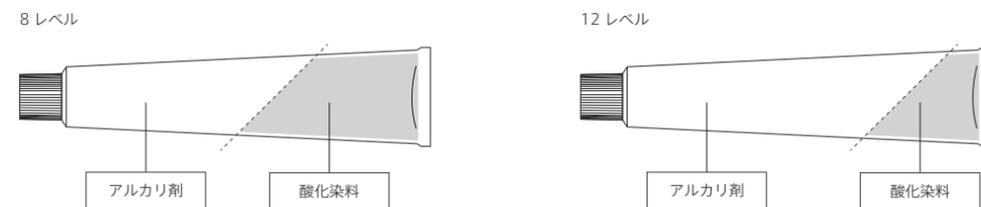
弱酸性ヘアカラーは2つのプロセスがあります。



ヘアカラー（酸化染毛剤）は薬剤が1剤と2剤に分かれています。施術直前にそれらを専用カップに入れて（使用上の注意を守って正しく使用すること）よく混ぜることによって反応が始まります。アルカリタイプのヘアカラーは1剤と2剤を混ぜることで「薬剤浸透」・「ブリーチ（メラニン色素脱色）」・「発色（酸化重合）」の3つの作用が起こります。一方、弱酸性ヘアカラーは、1剤のアルカリ剤の配合量が少ないため、髪に対する作用は酸化染料の浸透・発色のみとなります。ブリーチ力はほとんどなくなりますが、代わりにダメージを抑えることができます。

1剤の明度設定によるアルカリ剤と酸化染料の配合バランス

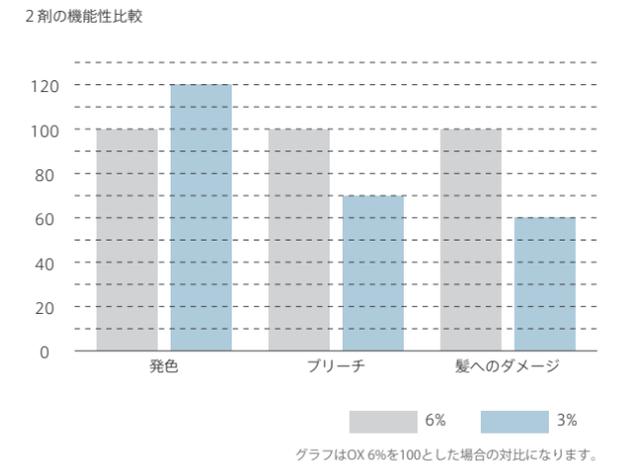
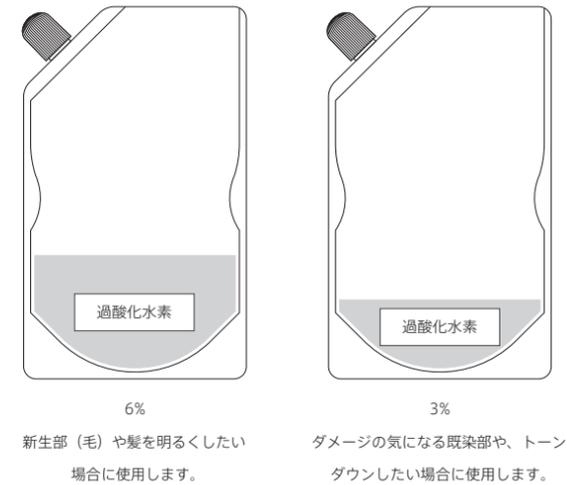
薬剤の明度（レベル）が高くなるほどその薬剤に含まれる「アルカリ剤」の割合が高くなり、「酸化染料」の割合が低くなります。



* 図はイメージです。

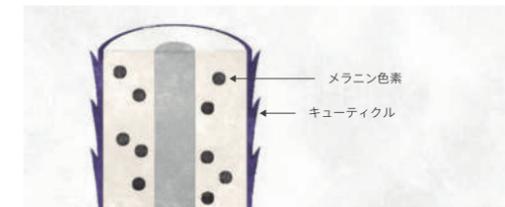
2剤の使い分け

2剤は、過酸化水素水の配合率が異なるタイプが存在します。それぞれの特性を知り、毛髪や目的に合わせて使い分けましょう。



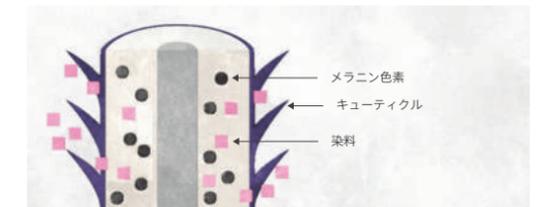
染毛メカニズム（アルカリヘアカラー）

1. 塗布前の状態



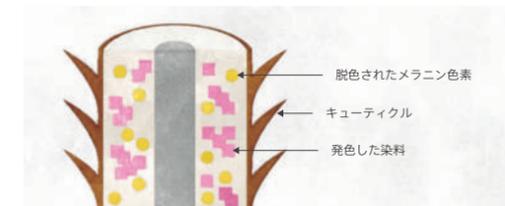
1剤と2剤を混合し、乾いた髪に塗布します。

2. 毛髪の膨潤と染料の浸透



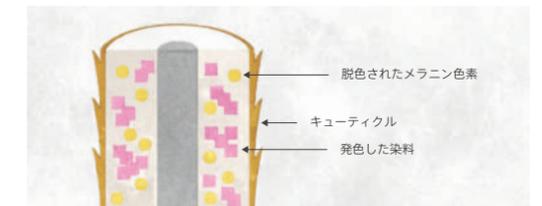
1剤中のアルカリ剤がキューティクルを開き、染料などが髪の内部へ浸透します。

3. メラニン色素の脱色と染料の発色



1剤中のアルカリ剤と2剤中の過酸化水素によって発生する酸化力によってメラニン色素を脱色し、同時に染料を発色させます。

4. 染料の定着



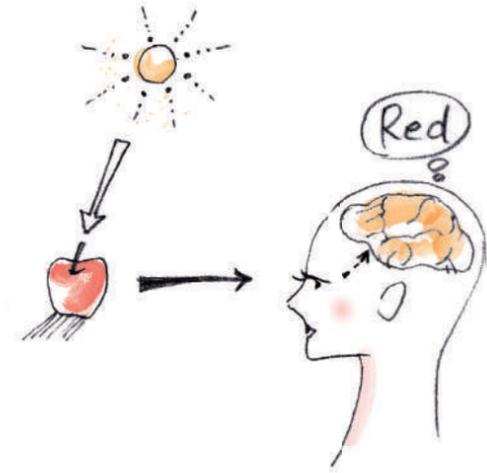
発色した染料の分子はくっつき合い、元より大きくなります。そのため染料はキューティクルのすき間から出にくくなり、髪の内部に閉じ込められて色が定着します。

* 図はイメージです。

色彩の基礎知識

色について

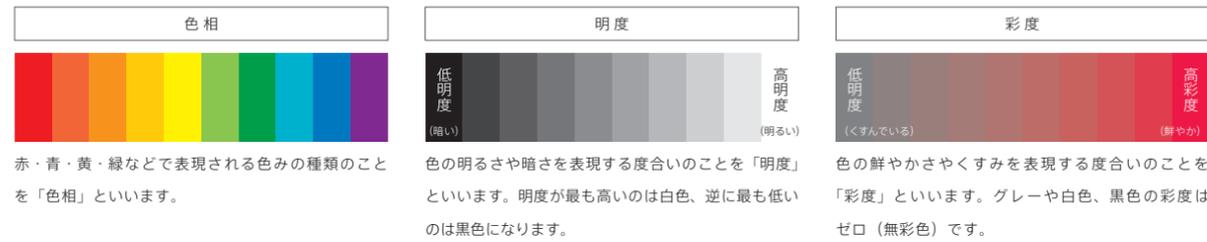
私たちはどうやってその物体の色を認識しているのでしょうか。
 りんごが赤く見えるのはなぜでしょう？
 りんごが赤く見えるのは光が関係しています。太陽や蛍光灯といった無色透明の光(白色光)には、全ての色の光が均等に含まれています。
 りんごはその大部分を吸収しますが、赤い光だけを反射します。その光が目に入ることによって私たちは「りんごは赤い」と認識することができます。つまり、りんごが赤く見えるのはりんごの皮に「赤い光を反射する性質」があるからです。



私たちが色を感じるには「光源」・「物体」・「視覚」の3要素が必要です。真っ暗な状況や目を閉じた状態だと、物体の色は見ることはできません。前者では「光源」が無いので物体に光が反射されず、後者では反射した光が「視覚」に届かず色として認識できないからです。

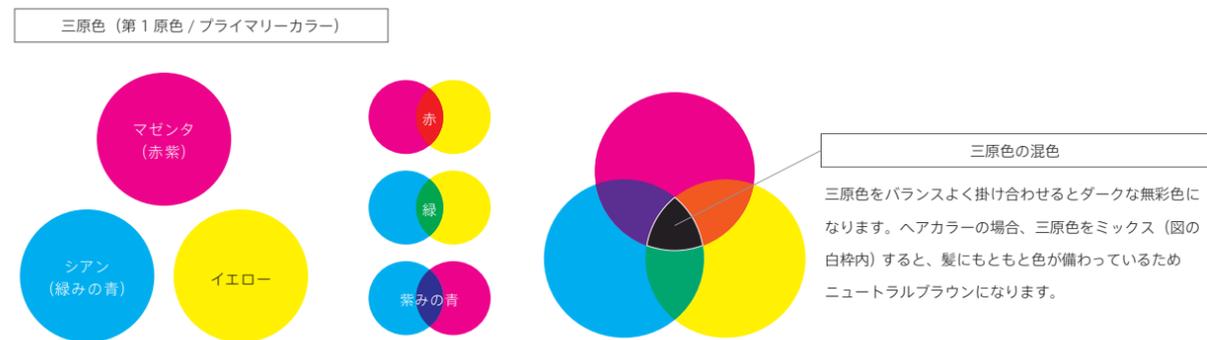
色の三属性

色が持つ性質には色み、明るさ、鮮やかさがあり、それぞれ「色相」・「明度」・「彩度」と呼びます。この3つの性質を「色の三属性」といい、これによってあらゆる色を分類したり、言い表したりすることができます。この考え方はヘアカラーを考える上でも同様に基本となります。



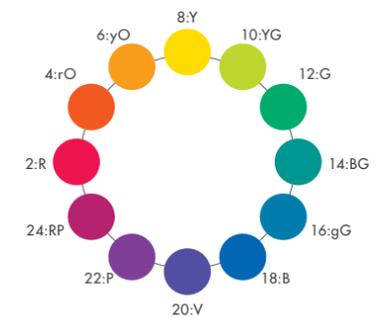
色の三原色

シアン（緑みの青）、マゼンタ（赤紫）、イエローを「色の三原色」といいます。三原色はそれ以上分解できない色であり、他の色同士を混ぜ合わせてもできない色でもあります。この3色で（理論上は）すべての色相をつくる事が可能です。別名：第1原色、プライマリーカラーとも呼称します。



色相環とは

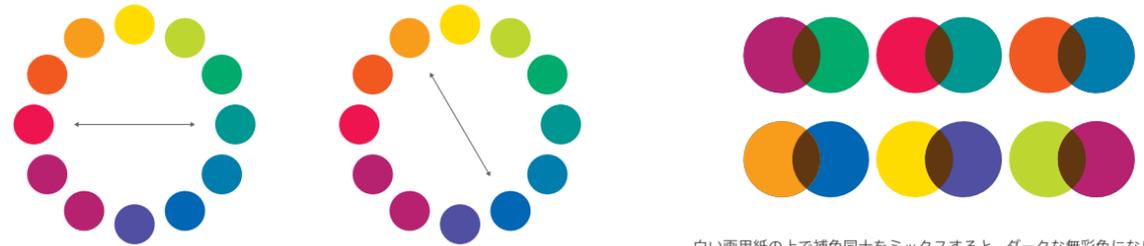
色相環はある一定の約束事にしたがって色相を円形に並べ、図にしたものです。目的や用途別に様々な色相環が開発されていますが、ここでは日本色彩研究所が開発したPCCS（日本色研配色体系：Practical Color Co-ordinate System）に基づいた色相環を紹介します。
 右図の色相環図から赤色を例にあげると、一番近い色相は両隣の「赤みの橙」や「赤紫」であり、逆に一番遠い色相は正反対に位置する「青緑」です。



資料提供：日本色研事業株式会社

補色とは

色相環上で正反対に位置する色のことを「補色」といいます。この正反対の位置関係にある色同士を「補色の関係」といいます。反対色という言葉がありますが、意味はほぼ同じです。

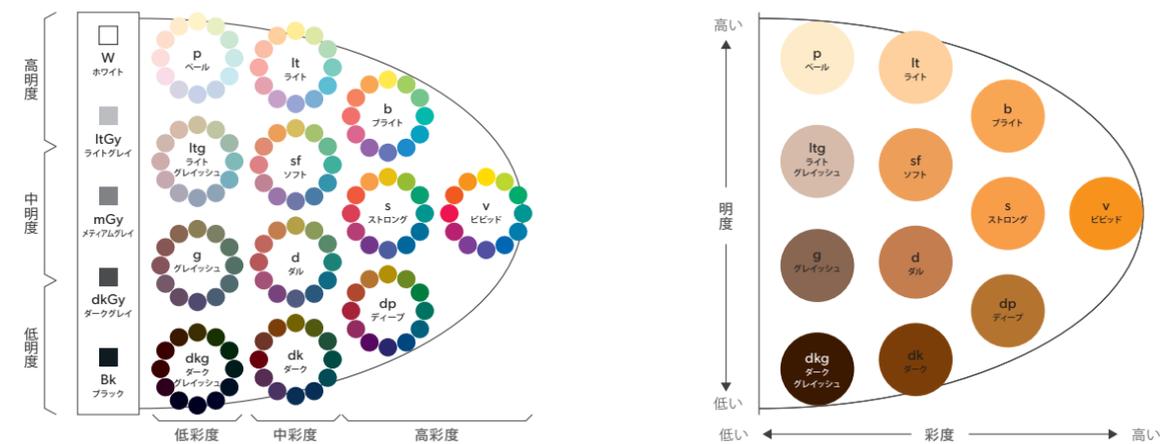


赤の補色は青緑になり、青の補色は黄みの橙になります。

白い画用紙の上で補色同士をミックスすると、ダークな無彩色になります。ヘアカラーの場合は、ベースの髪がブラウンなので、補色をミックスするとニュートラルブラウンになります。カラーチェンジをする場合などに補色を用います。

トーンについて

色の明度（明暗）と彩度（鮮やかさやくすみ）を組み合わせて「トーン」と呼びます。色は明度と彩度の組み合わせで作られます。同じ色相でも明度と彩度を組み替えることで多くの色を作ることが出来ます。



資料提供：日本色研事業株式会社

資料提供：日本色研事業株式会社

有彩色と無彩色

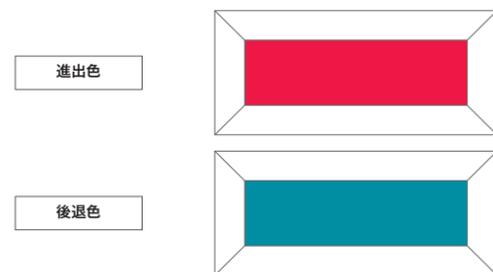
色鉛筆や絵の具のような彩度（鮮やかさ）を持った色のことを「有彩色」といい、逆に彩度（鮮やかさ）を持たない色（白・黒・灰）のことを「無彩色」といいます。



進出色と後退色

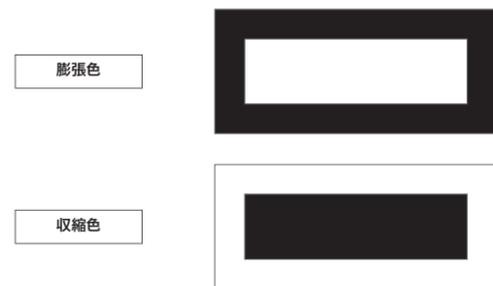
同じ形、同じ面積でも色が違うだけで飛び出して見えたり、後ろにさがって見えたりする色のことをそれぞれ「進出色」「後退色」といいます。赤・橙・黄などは「進出色」、青・青緑・青紫などは後ろに下がって見える「後退色」と言われています。

右図を見ると下側の青の長方形のほうが、赤の長方形より奥に入っているように感じ（見え）ます。道路標識などはこの作用を応用しています。



膨張色と収縮色

「進出色」「後退色」のように同じ形、同じ面積でも色によって大きく見えたり、小さく見えたりすることがあり、大きく見える色を「膨張色」、小さく見える色を「収縮色」と言います。一般的に黒などの明度の低い色は収縮して見え、白などの明度の高い色は膨張して見えます。右図を見ると上下の長方形は同じサイズですが白の方が黒より大きく感じ（見え）ます。



その他の色の作用

陽気な色と陰気な色



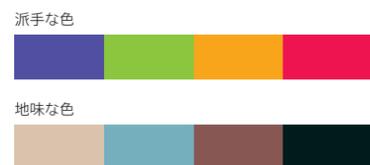
明度（色の明るさ）・彩度（色の鮮やかさ）ともに高いと陽気な感じになり、明度・彩度が低いと陰気な感じになります。色相で言えば暖色が陽気な色で寒色が陰気な色です。

興奮色と沈静色



赤みのある色で明度・彩度が高い色は興奮色といわれ、青みのある色で明度・彩度が低い色は沈静色といわれます。赤みのある色は心拍数を上げる作用があり、青みのある色は気持ちを落ち着かせる作用があります。

派手な色と地味な色



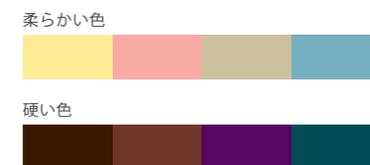
彩度が高いと派手な印象を受け、低いと地味な印象を受けます。

強い色と弱い色



鮮やかで濃い色ほど強いイメージ。反対に、パステルカラーなどの淡い色は弱いイメージを受けます。色相では色の強い弱いは影響せず、彩度・明度で決まります。

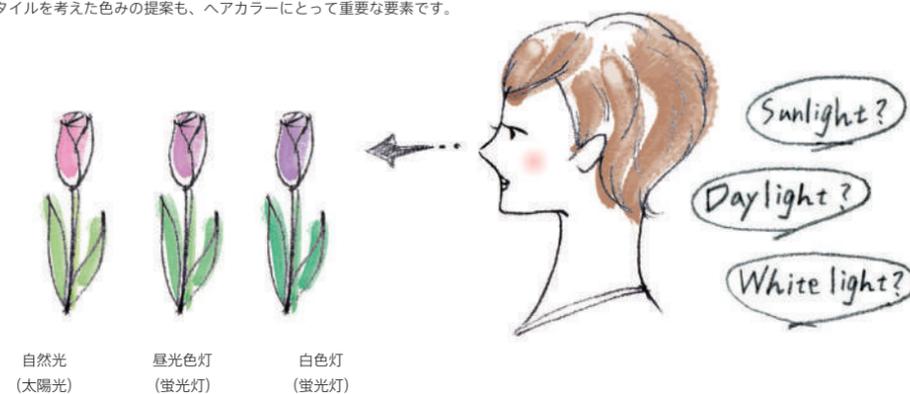
柔らかい色と硬い色



強い色と弱い色と同じように、明度が低いと硬く見え、高いと柔らかく見えます。

光源の違いによる色の見え方の差異

ヘアカラーの場合、光源（自然光・昼光色灯・白色灯）によって色の見え方が変わります。お客様のライフスタイルやサロン内の光源タイプ等を考慮した薬剤選定や提案をしましょう。同じ色のヘアカラーをしても、光の違いで色みの見え方はまったく違います。サロンではマット、アッシュの色みが強く見えたのに、外に出ると自然な感じに見えたりします。お客様のライフスタイルを考えた色みの提案も、ヘアカラーにとって重要な要素です。



太陽光	自然光	昼間の外の太陽光は均一な全波長を含むため、髪本来の色で見えます。
蛍光灯	昼光色灯	白色灯より青みが緩和されているため、自然な色味に近い色で髪の色が見えます。
	昼白色灯	
	白色灯	青みが強いので、髪の色も青みを帯びて見えます。
白熱灯	リフレクターランプ (レフランプ、アイランプ など)	蛍光灯より明るく、種類やワット数によって見え方は異なりますが、 蛍光灯よりも太陽光に近い髪の色に見えます。
	ハロゲンランプ	
	豆電球	暗いのでサロンで使用されていませんが、髪の色としては赤みを帯びて見えます。

毛髪診断

髪の状態によってヘアカラーのコントロール方法が変わります。
 まずは、髪がどのような状態かを確認（視診・触診・ヒアリング等）しましょう。

1-1. 髪質の見極め方

新生部を確認（診断）し、明るくなりやすい髪質なのか、なりにくい髪質なのかを判断します。
 髪質は「硬さ」・「太さ」・「撥水性／吸水性」の要素を合わせて総合的にその髪の「質」を判断します。

硬さ	単位	硬い～柔らかい	詳細	＜キューティクルの厚み＝弾力の有無＞ 毛束を指で丸めて跳ね返り度合いを確認します。
	判断方法	触診		
太さ	単位	太い～細い	詳細	髪の太さ（細い・太い）を判断します。
	判断方法	視診・触診		
撥水性	単位	撥水～吸水	詳細	水分をはじきやすい髪（撥水性）か、吸収しやすい髪（吸水性）かを確認します。 ＜キューティクルが厚い（親油性高 / 油分多）＝撥水しやすい＞ ＜キューティクルが薄い（親油性低 / 油分少）＝吸水しやすい＞ 地肌が脂性か乾燥性か？ スプレーヤーなどで水を噴きつけ、肌の状態を確認します。 ＜脂性＝水分をはじきやすい＞ ＜乾燥性＝水分を吸収しやすい＞
	判断方法	視診・触診		
白髪	単位	量・分布（場所）	詳細	白髪の量やどのあたり（部位）にあるか確認します。
	判断方法	視診		

1-2. 髪質判断による傾向と対策（ヘアカラーの場合）

髪質の要素	
硬い・太い・撥水性	柔らかい・細い・吸水性
▼	
診断からの傾向（仮説）	
明るくなりにくい（染まりにくい）髪	明るくなりやすい（染まりやすい）髪
▼	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 剤のレベルを希望より 1 レベル高めを選択する。 ● 2 剤の濃度を上げる。(6%) ● スライス幅を薄めに取り、多めに塗布する。 ● 放置タイムはやや長め。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 剤のレベルを希望より 1 レベル低めを選択する。 ● 2 剤濃度を下げる。(3%) ● ファッションカラーの時は、根元に薬剤がたまらない様に注意する。 ● 放置タイムはやや短め。

2-1. ダメージレベルの見極め方

既染部を確認（診断）し、ダメージ度合を見極めて、薬剤選定・事前処理の必要性等を判断します。

明るさ	単位	明るい～暗い	詳細	毛束を取り出し、髪の透け感を確認し、レベルスケールで明度を確認します。
	判断方法	視診		
パサつき 髪の重さ	単位	重い～軽い	詳細	毛先の広がりやハネ具合を見たり、軽く髪を持ち上げたりして重さを確認します。
	判断方法	視診・触診		
ツヤ 手触り	単位	有無	詳細	指に髪を挟んで滑らせて新生部と既染部を比較します。
	判断方法	視診・問診		
ダメージ レベル	単位	有無	詳細	アンダーレベルの明度に応じてダメージレベルを判断します。
	判断方法	視診		

2-2. ダメージレベルに合わせた事前処理やケアのポイント



ダメージレベル 1～2	ダメージレベル 3～4	ダメージレベル 4～5
毛髪の状態に応じて、適宜、事前処理剤を選択し、ダメージ部のコンディションを整えましょう。	染料の吸い込みや発色後の染料流出をしやすい状態ですので状況に応じて事前と事後双方でダメージをしっかり補修しましょう。	色もくすみやすくなり、染料流出も多くなります。髪もハリがなく、切れやすい状態ですので髪内部に栄養補給すると共にキューティクル補修もしっかりと施し、染料の流出も抑制しましょう。
その他のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ● アンダーレベルが低くても、パサついて髪が軽くなっていたり、手触りがザラつきツヤがない場合は、ダメージレベルが高い場合があります。問診などをしっかり行い、ダメージレベルを見極めます。 ● ダメージレベル 3～4 は薬剤（染料）の吸い込みが早くなりやすいため注意が必要です。 ● ダメージレベル 4 は吸い込みやすく、染料自体の流出（色落ち）も早く、色もくすみやすいです。 ● ダメージレベル 5 は染料の定着が極めて悪く、カラー施術直後から流出が始まり、褪色スピードが早いです。 		

3-1. 残留ティント（染料）の見極め方

ティント（染料）が残っているかどうかをチェックします。残っている場合は暖色か、寒色かを見極めて、求める色への影響の有無を判断します。特に、前回のヘアカラーから3ヶ月以内であればティント（染料）が残留している可能性が高いです。髪の中間部分が一番多く残留しやすく、毛先に行くほど残留量が少なくなります。

残留ティント	単位	有無／多い～少ない	詳細	新生部と既染部の境目や毛先の色で判断します。
	判断方法	視診・問診		今までの施術履歴を確認します。 【期間（〇ヶ月前）、色相（暖色～寒色）、濃い～薄い、明度、彩度など】

3-2. 残留ティント診断による傾向と対策（ヘアカラーの場合）

残留ティントと求める色	
残留ティントと求める色の色調を確認します。 同じ色調であれば残留ティントを活かし、違う場合は残留ティントを「削る」「打ち消す」施術や薬剤選定が必要になります。	
残留ティントを「活かす」場合	残留ティントを「削る」「打ち消す」場合
● 残留ティントが求める色調と同じで求める色を出しやすい場合は、求める色調の薬剤をそのまま使用します。	● メラニン色素を削ります。 (削りすぎや残留ティントが分解できない場合のトーンのスレに注意します) ● 補色でニュートラルブラウンに近づけます。 (明度が下がり過ぎないように色素量を残留ティントに合わせて調整します) * 一回で補正できない場合は無理をせず、段階的なカラーチェンジをお客様におすすめしましょう。

4-1. パーマ履歴の見極め方

パーマの履歴（状態）を見て、ヘアカラーの色み（染料）の入りやすさを判断します。

パーマ履歴	単位	有無	詳細	見た目パーマ（ウェーブ、ストレート、縮毛矯正）の有無を確認します。 (ドライ&ウェット両方)
	判断方法	視診・問診		過去の施術内容（時期や種類等）をカウンセリングで確認します。

4-2. ヘアカラーにおけるパーマへの傾向と対策

パーマ履歴診断からの傾向（仮説）	
縮毛矯正毛やデジタルパーマ毛は明度が上がりにくい	ハードパーマは染料を吸い込みやすい
対策	
● 1 剤の明度は希望より 1 レベル高めを選択する。 ● 2 剤濃度を上げる。(6%) ● 既矯正部や毛先の発色状態を見ながら根元を塗布する。	● クリア剤などを使用するなど、染料濃度を調整する。 ● 事前処理を施す。

5. メラニン色素の見え方と特長

求める色にヘアカラーするための適切な薬剤選定には、メラニン色素の見え方を理解することが大切です。

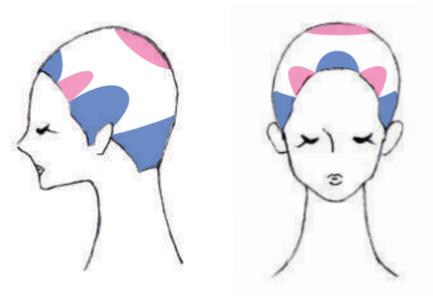
メラニンのタイプ	赤み	黄み	青み	灰み
特長	● 日本人に多い ● 硬く太い髪に多い ● カラーが反応しにくい	● 細く柔らかい髪に多い ● カラーが反応しやすい	● 太く硬い髪に多い ● カラーが反応しにくい	● 細く、柔らかい髪に多い ● 日本人には少ない ● カラーが反応しやすい ● 染料が残りにくい
見た目（視診）の印象	● 全体に赤みを感じる ● 透け感が弱い	● ドライ（乾燥）感がある ● 透け感が強い ● 黄味が目立つ	● 赤みを感じない ● 黒く見える髪に多く含まれる ● 透け感が少ない	● 寒色感やドライ（乾燥）感がある ● 透け感が強い
明度を上げる（リフトアップの）注意点	● ブリーチされにくい ● リフトアップすると赤みが出る	● ブリーチされやすい	● ブリーチされにくい ● 透明感が出にくい	● ブリーチされやすい ● 寒色に傾きやすい
明度を下げる（トーンダウンの）注意点	● 明度を下げる場合は暖色系（暖かみのある色）で	● 明度を下げる場合はやくすみのある色で	● 明度を下げる場合は暖色系（暖かみのある色）で	● 明度を下げる場合はやくすみのある色で
色み表現の注意点	● 赤みを表現しやすい ● 低明度での寒色系が表現しにくい	● 幅広い色み表現が可能 ● 色に透明感が出る ● 希望色より明るくなりやすい	● 深みのある色を表現しやすい ● 寒色系は暗めに出やすい ● くすみのない色を選択する	● マット系は濃く出やすい
適している質感表現	● うるおいのあるツヤ ● 深みのあるツヤ	● 透明感のあるツヤ	● 深みのあるツヤ	● まろやかさ ● 透け感のあるツヤ
適さない質感表現	● 透明感のあるツヤ	● 深みのあるツヤ	● うるおいのあるツヤ	● うるおいのあるツヤ

ヘアカラー（酸化染毛剤）の基本操作

頭部（部位）による染まり方の違い

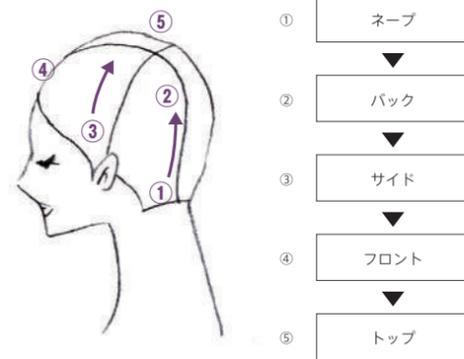
頭部は部位によって体温が異なっています。体温が高く染まりやすい部位、体温が低く染まりにくい部位を把握し、目的に合わせて塗布手順を変えて操作します。

■ 染まりやすい部分 ■ 染まりにくい部分



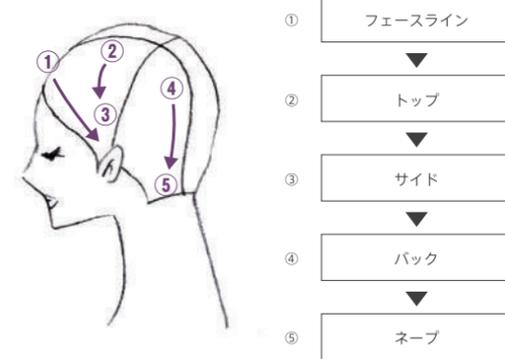
塗布手順

ファッションカラーの場合



染まりにくい部位から塗り始めます。

グレイカラーの場合

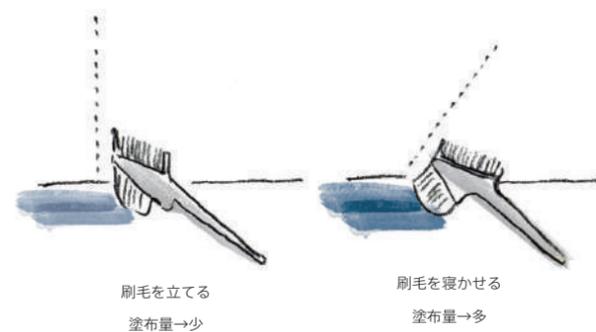


白髪の多い部位から塗り始めます。

刷毛（ハケ）の使い方による塗布量調整

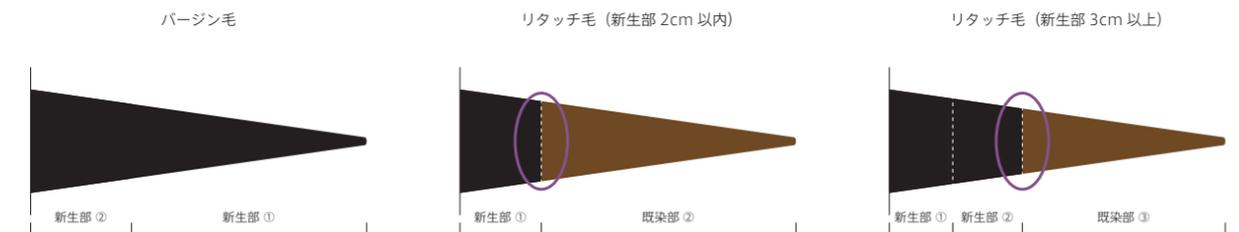
刷毛は毛束に対して立てて塗布するか、寝かせて塗布するかで塗布量が変わります。立てて塗布すると塗布量は少なくなり、寝かせて塗布すると塗布量は多くなります。

染まりやすい部位は 90° くらいまで刷毛を立てて塗布したり、逆に染まりにくい部位は 30° くらい刷毛を寝かせて塗布したりして塗布量をコントロールすることが大切です。



アルカリカラー（酸化染毛剤）の基本プロセス

FASHION COLOR



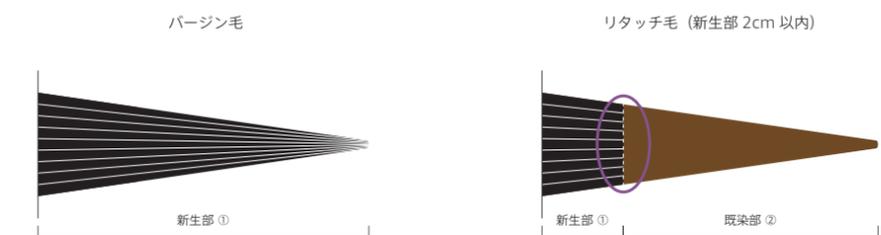
1. 根元 1cm 弱（新生部②）を残して、新生部①にカラー剤を塗布します。
2. 次に根元 1cm（新生部②）にカラー剤を塗布します。
3. 20 分程度、自然放置します。
4. カラーチェックし、シャンプーします。

1. 新生部①にカラー剤を塗布します。
2. 次に既染部②にカラー剤を塗布します。
3. 20 分程度、自然放置します。
4. カラーチェックし、シャンプーします。

1. 根元 1cm 弱（新生部①）を残して新生部②にカラー剤を塗布します。
2. 次に根元 1cm 弱（新生部①）にカラー剤を塗布後、そのまま既染部③にカラー剤を塗布します。
3. 20 分程度、自然放置します。
4. カラーチェックし、シャンプーします。

○ = 新生部と既染部の境界線（ディバイディングライン）は薬剤を必ず、オーバーラップ（塗布）して下さい。
* 毛髪状況により、タイムコントロールや塗布量のコントロールをする場合があります。

COMFORT COLOR



1. 新生部①にカラー剤を塗布し、20 ~ 30 分程度、自然放置します。
2. カラーチェックし、シャンプーします。
(必要に応じてシャンプー前に乳化します。)

1. 新生部①にカラー剤を塗布し、10 ~ 15 分程度、自然放置します。
2. 次に既染部②にカラー剤を塗布し、10 ~ 15 分自然放置します。
(必要に応じてシャンプー前に乳化します。)

○ = 新生部と既染部の境界線（ディバイディングライン）は薬剤を必ず、オーバーラップ（塗布）して下さい。
* 毛髪状況により、タイムコントロールや塗布量のコントロールをする場合があります。